

会員各位

医療・医薬品情報研究会

代表幹事:水野 敦典

平成22年7月研究会(第131回)のご案内

紫陽花がひときわ目立つ季節となりました。紫陽花の花言葉は「移り気」、少しずつ色を変えていくことからつけられたのでしょうかが美しくなるための試行錯誤ともとれます。ひたむきな愛情を持った元気な女性を言いあらわしているのかも知れません。

朝の通勤電車、マンガを読む男性をしり目に日経新聞を読む女性が目につくようになりました。さらに、男性専科と思われていた立ち食いそば屋・カプセルホテルにも3割近い女性の姿を目にします。医師の国家試験も年々女性の合格者が増え3割近い合格率となっているなど女性の社会進出が顕著となっています。一般的には男子の草食化、女子のわがまま化に表わされるように元気な女性が増えている昨今です。育児休暇、施設内への託児所設置など女性の働く環境作りも進んでいる現実があります。今回は女性にフォーカスしたテーマを取り上げました。

(講演要旨)

1990年代初頭に全国にいっせいに普及した「更年期外来」、2000年以降、同じく全国に急速に普及した女性外来。その背景には、適切に助言できる保健医療施設・保健医療者へのつながりがなかったことが常に指摘されてきた。2010年、次の変革を求めて、過去の経験を活かした仕組みづくりが求められている。薬局や訪問看護ステーションにはまずその点において、地域住民の保健医療情報のアクセスポイントとして重要な役割を果たすであろうことが推測される。地域に根付いて職能を発揮する薬剤師、看護師、保健師、管理栄養士は、新しい仕組みづくりの中でその職責を果たすことが求められている。疾病予防の知識、医療へのアクセス方法、加齢に対する予防対策など、各職種の有機的連携がもたらされ、そのベースには女性医療に関する保健医療者の技能向上が必須である。(宮原富士子)

テーマ：「Gender Specific Medicine という視点からみた女性医療の変遷」

講師： 宮原 富士子 氏

NPO法人 H A P [Healthy Aging Projects for Women] 事務局長

NPO 法人 21世紀ウイメンズヘルス研究会 副理事長

記

日 時:平成 22 年 7 月 15 日(木) 15:00～17:00

会 場: 薬学ゼミナール・お茶の水教室3階第2会議室→会場変更(4～7月まで)

アクセス:<http://www.yakuzemi.ac.jp/search-school/ochanomizu>

●当日参加は 3000 円徴収させていただきます。

●出欠連絡は7月12日(月)迄に→n.mizuno@ivory.plala.or.jp